

とみぱーく ~ Tomi park ~

Interview

今回、公園に携わっていただいたアドバイザーのお2人にお話を伺いました

公園に込めた思いは何ですか？

原田 河川公園の竣工には何度か携わっていて、水辺のもっている力を知っているつもりです。いい水辺があると街までよくなる。さらには、この公園の影響で「富加に住みたい」「子どもたちが大人になっても住み続けたい」といった町の魅力の一部にしたいと思いを込めて公園づくりに取り組みました。

出村 富加ののんびりとした雰囲気壊さないように、いいところを生かしつつ、水辺と人との距離感を大切にしました。現代社会では普段の生活の中で「川」は遠い存在。私自身も小さいころ学校の先生から「川に近づいてはいけません」と言われて育ちました。でも川は、ちゃんと向き合えば危険ではないんですよ。川と心地よく近づくという意味でも公園の平地に立った時に途切れなく、川に行きたくなるような角度に力を入れました。石積みもジャンプして降りられる高さにしたり、川に直行できるようにしたりして、そのアクティブさとかフレンドリー感のある場所にしました。

原田 まずはどここの場所につくるか考えました。今の場所に決まった理由は子どもたちの通学路があったからで、例えば、年間で200回通学すると往復で400回この場所を通るんです。

町の中心を流れ、町の四季を感じることができる川浦川。その川辺に「とみぱーく」が完成しました。

町の歴史を集約した段々の地形と加治田城の周りにある石積みがデザインに取り込まれています。春には対岸の桜が咲き、夏にはケヤキが葉をつけ、四季折々の風景を感じられる場所です。

建設課建設係 ☎0574-54-2114



6年間で2,400回もこの風景を見るわけです。つまり、子どもたちにとって水辺がいい町だと子どもたちに刷り込まれていくと思います。帰りにここで宿題をして帰ったり、この公園で遊んだりと家族や先生に怒られちゃうかもしれないけど、水辺の安全性を含めて子どもが遊んで危なくないような場所が一番いいところを選びました。ここから、開発などでどんな景色が変わっていくわけです。この質の高い水辺があることで、質が保たれる仕組みを盛り込みました。まず、最初に議論したのは、一番いい場所に質のいい空間を作り、子どもや、高齢のひとたちに何度か使ってもらうことにより、町に対する愛着を高める場所にするという思いで公園づくりが始まりました。

出村 基本的には富加の人たちのために公園を作るという思いはあります。公園がちゃんと愛されている場所であることが重要だと考えました。例えば、茶室の空間と一緒に、取り仕切る主人がいて、その人がちゃんと楽しんでいてという状態が参加した人たちを感動させます。この公園の前を通る人が、ここはなんだろうと気づくわけです。この存在自体が広告塔になる。この場所の暮らしの良さを勝手に宣伝してくれるんです。町外の人

も当然それに感化されて来場する人が増えてもらいたいです。そのためには、町の人がちゃんとこの公園を愛せるという状態になることを意識しました。

この公園の魅力教えてください

原田 現代の子どもは、川に入っただけという機会があまりにも少ない。そういった子どもでも川に入りやすい公園にしてありますので、親御さんも安心して遊ばせてください。この公園は遊具がひとつもないんです。遊具は川なんです。子どもは、遊具があっても水辺が見えたら、川に一直線に遊びに行ってしまう。普通の公園と違うところは、いたるところに居心地のいい場所を作りました。普通の公園は、ベンチや東屋があり、わかりやすくしてあるんですが、この公園では木陰で本を読み、川で遊んでいる子どもを石積みから見ているなど、人によって色んな場所で色んな利用ができます。ですから、町の人には、この公園を使い倒してもらいたいです。

出村 この公園は、子どものことを考えて、子ども目線で作りました。安全も考えていますし、遊び場としての魅力が高い。いい場所ができると、それに影響されて周りが変わっていく。まずはこの魅力を町の人たちが高めてほしいですね。



岐阜大学准教授
工学部社会基盤工学課

出村 嘉史 さん



岐阜大学准教授
流域圏科学研究センター

原田 守啓 さん